

市川市青少年代表団メダン市派遣行程表

〔1日目〕 8月12日 (月)	7:50	生涯学習センター前集合
	11:30	羽田空港出発 【JL-037】(日本航空)
	19:20	シンガポール経由 メダン クアラナム空港着【SQ5238】
	20:15 20:45	ホストファミリー対面式 各ホストファミリー宅へ ホームステイ宿泊
〔2日目〕 8月13日 (火)	8:30	メダン市市長表敬訪問
	9:30	市内視察：大モスク、マイムーン宮殿視察、ラーマツト博物館視察、北スマトラ伝統服体験 ホームステイ宿泊
〔3日目〕 8月14日 (水)	7:30	メダン市役所にてメダン市青少年と交流
	8:00	パラパトへ出発
	11:00	バー・ダマニック見学
	17:00	パラパト到着後ホテルチェックイン インパパラトホテル宿泊
〔4日目〕 8月15日 (木)	9:00	サモシール島へ出発 トモック地区で観光
	14:00	ベラスタギへ出発(ティガラス経由)
		シマルジャルジョン、ピソ、ピソ滝へ立ち寄り(残念ながら中止)
	17:00	ホテルチェックイン シバヤク・インターナショナルホテル宿泊
〔5日目〕 8月16日 (金)	9:00	ホテルのプールで日光浴(水遊びも可)
	10:30	ベラスタギフルーツマーケット見学
	12:30	メダン市へ出発
	17:00	メダン市着 ホストファミリー出迎え ホームステイ宿泊
〔6日目〕 8月17日 (土)	8:00	インドネシア独立記念日式典参列 メダン市民との交流
	13:00	独立記念祭参加
	18:00	市長公宅夕食会 ホームステイ宿泊
〔7日目〕 8月18日 (日)		フリーデー(ホストファミリーと一緒に過ごす) ホームステイ宿泊
〔8日目〕 8月19日 (月)	9:00	学校訪問
	11:00	サンプラザモールにて買い物
	19:00	日本総領事主催 送別夕食会 ホームステイ宿泊
〔9日目〕 8月20日 (火)	8:45	クアラナム空港発【SQ5233】
	11:05	シンガポール到着後市内見学 (マーライオン/モスク/蘭園/オーチャード通り)
		ホテル グラントパシフィック宿泊
〔10日目〕 8月21日 (水)	8:10	チャンギ空港発【JL-712】
	16:20	成田空港着
	18:50	市川市文化会館着予定
	19:00	帰国式(市川市文化会館第4会議室にて)
	19:30	解散・帰宅

※時間はすべて現地時間

メダン市派遣の感想

須藤 碧

私達は、市川市の青少年代表として、姉妹都市のメダン市を訪問してきました。メダンで過ごした8日間の中、日本とは全く異なる沢山の文化に触れることができました。日本にはないものが沢山見られたのは、食事の場面に多かったと思います。

私が食事の時は、初めて見る食べ物は、美味しくなさそうでも変な匂いがしても、必ず一口は食べてみると決めて、沢山の料理を食べました。一番印象に残っているのはドリアンです。フリーデイの日にドリアンのお店に連れて行ってもらい、人生で初めて体験しましたが、お店に入った瞬間から強烈な匂いがし、一口だけ試食させてもらいましたが、美味しいと思えませんでした。ですが、私が食べたドリアンの身は色が白っぽく甘さが控えめなのに対し、黄色いものは甘くて美味しいものが多いらしく、また、「ドリアンは3回食べたら好きになる」と言われているそうなので、いつかまた挑戦してみたいと思います。その他マンゴスチンという果物や、有名なナシゴレンなど、初めて食べた食べ物は沢山ありますが、その中で感じたことは、主に食べられるご飯などは辛いものやしょっぱいものが好まれているけど、デザートや飲み物などは甘いものが好まれているということです。私が特に驚いたのは飲み物で、どこに行っても砂糖の沢山入った甘い紅茶が出され、ストレートで飲むという習慣が無いように感じられました。また、パートナーの友達の家に行った時、日本ではかき氷にかける事が多いシロップがそのままグラスに入った状態で出され、とても驚きました。インドネシア人にとっては、シロップは何かにかけるものではなく、そのまま飲むジュースの様なものだそうです。また、私は今回スプーンやフォークを使わずに手だけを使って食事をする事も体験しました。最初は上手くご飯を掴めず、少し戸惑いましたが、すぐに慣れることができました。今までは手で食べることにに対し、食べづらそう、手が汚れてしまう、など良いイメージがありませんでしたが、チキンなどの手を使った方が食べやすいものを食べた後に手を拭く必要がないなど、手で食べることの便利さも学ぶことができ、とても貴重な経験になりました。

食に関する文化の違いや新しい発見もまだまだありますが、生活の面でも沢山の体験ができました。特に印象に残っているのは、お風呂とトイレです。私のホームステイ先の家には、脱衣所は無く、扉を開けるとすぐにトイレとお風呂がありました。バスタブとシャワーは無く、水の張られた大きいバケツの様なものから桶で汲んで水を浴びました。そのすぐ隣にあるトイレにはトイレットペーパーがなく、また、流すボタンもない為、バケツから汲んだ水で流しました。初日は本当に驚きましたが、これがインドネシア人にとっては普通なのだと考えると、すぐ慣れることができました。それと同時に普段自分が当たり前のように使っている日本のお風呂

やトイレがとても発達しているものだということにも気付かされました。そして私が一番カルチャーショックを受けたのは、貧富の差です。全体的に裕福な日本に比べ、インドネシアは各家庭によって生活水準に差があると、知ってはいたものの、実際に見ると想像を絶するものでした。私のホームステイ先は警備員の見張りが付いている高級住宅街にあり、お手伝いさんも雇われていて、車も何台も ありましたが、街を移動していると、今にも崩れそうな小さな家や一台のバイクに 5.6 人で乗っている家族、お金を求めて交通整備などを行っている人が沢山見られ、そんな生活を送っている人々はごくわずかなのだという事に改めて気付かされました。私が今でも忘れられないのは、サモシール島に行った時、現地の子供達がお金を求めて私達の船に乗り込んできてしまい、メダンの引率の人達が紙幣を丸めて湖に投げ、子供達がそれに飛びつくように飛び込んでいったことです。日本ではあり得ない光景だったので衝撃でした。私がこの派遣を通して経験した事は書ききれないほどありますが、沢山の事を学ぶ事ができました。また、これから世界の貧困を無くす為に自分にできることは何か、を考えさせられました。私はこの派遣で得た事を、メダンについてよく知らない人にこそ伝えていきたいです。

私がこの派遣の事を知るまでメダンと市川が姉妹都市であることも、メダンがどのような場所なのかも知らなかった様に、そして、今回メダンや現地の人々の素晴らしさに気付くことができた様に、同じ市川に住む人達に、国際交流の良さを知って頂きたいです。最後に、この様な機会を与えてくださった村越市長、成田会長国際交流協会の皆様、引率の小松さんと広瀬さん、ホストファミリーやメダンで出会った全ての人に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

メダン市派遣を通して

木内 瑠果

私はこの度メダン市派遣生の一員として、メダン市へ訪れました。インドネシアを訪れることはほぼ初めてのことであったので、事前のオリエンテーションでインドネシアの文化やインドネシア語についてしっかりと学んでから、今回の派遣に臨みました。

実際に訪れて、驚いた点が沢山ありました。最も驚いた点は、宗教についてです。インドネシアは、ほとんどの人がイスラム教徒なので、私達派遣生も豚肉を一切見ることはありませんでした。さらに、服装については必ず長袖長ズボンだと考えていましたが、実際には、男女構わずボトムスは長めのものを着用している人がほとんどで、トップスは半袖を着用している人も、かなりの割合でいました。今回のように、実際にその国へ行かなければ分からなかったり、実際には異なっていたりすることがあることを、身を持って感じました。

また、ホームステイ先のパートナー達と共に行った研修旅行ではサモシール島を訪れました。みんなで船に乗り、世界最大のカルデラ湖であるトバ湖を横断して向かいました。この日はまだ、全体の4日目だったのですが、他の派遣生のパートナーもいたので、お互いの学校や家の話などを沢山話して、より仲良くなれた良い機会でした。そして、サモシール島の民族の伝統的な家に入ってみたり、伝統衣装を着させて頂いて民族の踊りを踊ったりと、満喫しました。中でも、印象的だったのが、彼らの処刑についてです。ガイドさんの話によると、処刑の実行者は犯罪者を一回で処刑できなかった場合、自分自身が処刑されてしまうというものでした。これは、私にとってとても大きな衝撃を与えられたものでした。研修旅行では、自分で実際に見て学んで聞いて、インドネシアについて深く感じる事ができました。

今回、インドネシアでホームステイをするにあたって、不安だったことはお風呂についてでした。事前のオリエンテーションで、シャワーは水しか出ない事を聞いていたのですが、私のホームステイ先はお湯が出るタイプのものでした。ですが、水の溜まっている桶から水を汲んで使ったという派遣生もいたので、シャワーから、お湯が出た家はやはり珍しいものであったと感じました。また、公衆トイレでは、水を流すボタンはなく、紙も装備されてなく、水の溜まっている桶から水を入れてそこに流し込むものでした。始めの頃は、日本のものと大幅に違うタイプのトイレに驚き、私も含めみんな使おうとしませんでしたが、途中から慣れてきて使いまし

た。水についてですが、日本のように水道の水は飲めるものではありませんでした。対照的に、研修旅行の途中で立ち寄った泉の水の色はとても澄んでいて、思わずみんなで手を入れて確認してしまうほどでした。その泉では地元の方々が入っていてとても楽しそうで、私も一緒に遊びたかったと帰国した現在でも思っています。

さらに、環境衛生についてですが、インドネシアの空港に夜に到着して、外を見てみると、暗い空にはっきりと白い煙がありました。パートナーに聞いてみると、近くにあるプラスチック工場から出ている有害なものだと教えてくれました。私は、多くの人々が行きかう空港の近くで、有害な煙が出ている事に驚愕させられました。メダン市では、沢山のごみが当たり前のように道に捨ててあり、少しショックに感じてしまいました。最後に、私は今回のメダン市派遣に参加することができ本当に良かったと、心から思いました。他の派遣事業をみてもインドネシアというのはとても珍しいものだと思います。その貴重な機会に参加し、インドネシアの外側しか知らなかった私にとって、インドネシアの内面を知ることが出来、様々な体験をさせて頂いたことに心から感謝いたします。このメダン派遣の経験は、仲良くなった派遣生たちと共に私にとって一生忘れないものになりました。ありがとうございました。

メダン市との交流を終えて

須田 千遥

私はメダン市への派遣が決まり、楽しみと同時に、気になることがありました。それは、今回、初めてホームステイを経験することになったからです。私は外国に住んだこともあるし、海外旅行にもたくさん行ったことがありますが、長い期間、外国人の自宅に泊まったことはありませんでした。私はホスト先のパートナーの子にメールで確認したら、4人兄弟とご両親の6人家族だと聞き、大家族でびっくりしました。お世話になるのは、私の他にもう一人の派遣生がいたので、全員で8人になるので、広い家なのかなと想像を膨らませていました。

メダンの空港に到着し、荷物を持って緊張しながら到着ロビーに出たら、ホストファミリーのお父さん、お母さんとパートナーが三人で迎えに来てくれました。優しくすぐ安心してしまいました。お父さんの運転した車で、まずは野外のレストランで夕食を食べました。私ともう一人の派遣生はスープに麺が入っているベトナムのフォーのような料理を食べました。とても美味しかったので、これからの食事への期待が高まりました。食後はホストファミリーの家へ行きました。高級住宅街の大きな一軒家でした。天井がとても高く、広々としたリビングルームでした。時間も遅かったので、部屋に案内をしていただき、その日はシャワーに入り、寝ました。もう一人の派遣生と一緒に部屋でした。

今回の派遣で最も印象に残ったことは、メダンの同世代のパートナーたちとトバ湖へ2泊で行ったことです。トバ湖はインドネシアのスマトラ島北部にある、東南アジア最大の湖です。琵琶湖の約1.8倍の大きさで、サモシール島の火山の噴火で誕生したそうです。私はトバ湖を見た時、海のように感じました。トバ湖をフェリーで渡り、サモシール島へ行き、先住民のバタック族の伝統的な高床式の家を見学しました。船のような屋根をした特徴的な家でした。バタックダンスを現地の方に教わり、楽器の音に合わせて踊りました。儀式的な動きがあり、とてもユニークな踊りでした。そしてバタック族の昔の処刑台も見学しました。かつては罪人が処刑されたところだったそうです。今回の派遣に参加しなければ一生知ることなかったかもしれない文化を目の当たりにしました。トバ湖からメダン市へ帰る途中に、フルーツマーケットに立ち寄りました。そこでは日本ではめったに食べられないマンゴスティンをたくさん食べました。甘酸っぱくてとてもおいしかったです。マーケットでは、たくさんのフルーツが高く積み上げられていて、カラフルでした。そして試食もたくさんさせてくれました。フルーツ以外にバッグやバティックの服、

偽物のキャラクターグッズなどのお土産もたくさん安く売っていて、私はブレスレットとバックをたくさん買いました。値切ってみたら値段をどんどん安くしてくれました。トバ湖とサモシール島への2泊の旅行はとても楽しく、何よりもインドネシアのパートナーたちと仲良くなれたことが嬉しかったです。

もう一つ印象に残ったイベントは、独立記念式典で盆踊りをたくさんの人々の前で披露したことです。行く前から浴衣の着方やどらえもん音頭の振り付けを練習しました。浴衣がとてもめずらしいからか、当日は見ていた人がたくさん一緒に写真を撮りたいと言ってきました。独立記念式典には軍の方がたくさん参加していました。インドネシアは1945年にオランダとの独立戦争が始まり、1949年にハーグ協定によってオランダがインドネシアの独立を承認した歴史があります。独立記念式典に参加していた人々の多くは正装をしていました。インドネシア人にとって、独立記念日は特別な日であると感じました。

私は市川市とメダン市の交流プログラムに参加する機会をいただき、旅行とは違った貴重な体験をたくさんできました。市川市とメダン市の関係者の皆さまに心から感謝しています。ホストファミリーのパートナーとは、これからも連絡を取り合い、つながりを持っていたいと思っています。インドネシアは急速に成長をしている国なので、これかも変化を遂げていくと思います。またいつか、ぜひ行ってみたいと思います。

イスラム教に注目して見たメダン

丹野 陽向

1枚目の写真は、ホームステイしていた家です。家に思えないほど大きくて、城のようでした。家には大きな門があり、門のすぐ内側にお手伝いさんの家がありました。そこにはちょっと覗いただけでも10人以上がいました。子供やおばあさん、若い男性など老若男女がいるようでした。ホストシスターはお手伝いさんが多すぎて全員の名前を覚えていないと言っており、衝撃でした。この家はトイレやシャワーの状態は良かったです。シャワーは動かせて、お湯も出ました。トイレもボタンで流せました。私はインドネシアを含むイスラム教の国の人、いつもヒジャブを巻いていると考えていました。ところが彼女は巻いていない時間のほうが多かったです。このプログラムに参加するにはヒジャブを巻かなければいけなかったらしく、集合写真のときだけ仕方なくヒジャブを巻くというようなことを言っていて、驚きました。

続いては食事についてです。インドネシア料理はチキンが多かったです。島国なのでもっとシーフードが多いと予想していたため、意外でした。味付けがどれも似ているものが多いと感じました。旅の中盤には日本食が恋しくなって、他の派遣生からもらった味噌汁を飲みました。感動でした。また、ホストファミリーにしゃぶしゃぶを食べに連れて行ってもらいました。私にはしゃぶしゃぶは牛肉、豚肉のイメージがあったので、インドネシアでは牛肉だけのしゃぶしゃぶなのだろうと考えていました。しかし、実際には違いました。肉はほとんどなく、シーフードや野菜、しらたき、キノコが多かったです。おいしかったのですが、しゃぶしゃぶというより日本でいうお鍋でした。

2枚目の写真は学校訪問です。ホストシスターの学校でした。彼女は学校に入る前に私にヒジャブを巻いてくれたのですが、前髪も出してはいけないうので、厳格な学校なのだと感じました。私は木内さんと共に空手を演武したのですが、その際もヒジャブを巻いたので、まるで忍者のようでした。日本ではこのような格好をすることはないので大変貴重な体験でした。

続いてはホストシスターから聞いたり、私が見たりした、イスラム教の習慣についてです。彼女はテレビをつけっぱなしにして寝ていました。私が早朝に目を覚ますと、コーランが流れていました。イスラム教の方などが映った映像と字幕が表示されていました。私がコーランを聞いたのはこの時が初めてでしたが、一瞬でコーランだと分かりました。その後、街中でも耳にすることができました。ホストシスターに断食について尋ねました。日本にない習慣なので興味深く思いました。またアラビア語を読めるのかも尋ねました。学校の授業でアラビア語もあるようですが、

まだ読んだり理解したりすることはできないようです。旅の様々な場面でイスラム教についての知識を増やすことが出来たかと思います。私は元々イスラム教に興味があったので、非常に新鮮で楽しかったです。

この派遣を通して、イスラム教やインドネシアの生活を体験できました。これはただの観光旅行では体験することができないと思います。イスラム教の習慣は普段の私たちの生活とは大きく異なると聞いていました。例えば、一日に五回、決まった時間にお祈りすると学んでいました。私はイスラム教の習慣にのっとなって、生活ができるのか不安でした。しかし、現代っ子たちの生活は日本もメダンも大きく変わらないと思いました。メダンでも日本のようにタピオカやk-popやTik Tokが流行っていました。杞憂だったようです。今回の課題点は、ホストシスター達がいつどこでお祈りしているのか知ることができなかったことです。聞いておけばよかったと思いました。

私の想像していたインドネシアのイメージと、実際のインドネシアとの差を皆に伝えていきたいです。今回の派遣で、イメージだけで決めつけることはよくないことだと思いました。百聞は一見に如かず、を体感しました。またメダンに行き、友達に会いたいです。彼女たちとは今もSNSで連絡を取り合っていますが、これからも取り続けたいです。

最後に、この派遣に関わってくれた皆様、ありがとうございました。

メダン市派遣での発見

津村 慧

僕は今回のメダン市の滞在で、日本の文化や生活習慣などの違いを強く認識させられた。インドネシアは僕にとって三回目の海外旅行で、今までにイギリスとシンガポールに旅行したことがある。どちらの国もインドネシアほどの宗教色はなく、イスラム教という日本では普段親しみのない宗教に触れるのは初めての経験だった。1日に5回あるサラートの時には街中に放送が流れ、そのたびに自分は日本とは違う国にいるのだと感じた。

(1) 食事について

空港でホストファミリー達と対面式を行った。僕のホストブラザーである KINDI とはそこで初めて会った。その後 KINDI に「辛いものは食べられるか？」と聞かれたので「平気」だと答えるたが、そのすぐ後僕はその答えが間違いであったことを知った。インドネシアの料理はほとんどが辛口で、その辛さも日本人がよく慣れているわさびのようなツーンとした辛さではなく、舌や唇が痛くなるような刺激的な辛さだった。しかし、果物はとても甘く新鮮なものが多く、日本のものよりおいしく感じられた。

またインドネシアでは食事を素手で掴んで食べるのが一般的であることにも、スプーンや箸で食べるのが常識であった私は驚きを隠せなかった。

(2) 公衆衛生について私がインドネシアでもう一つ戸惑ったことはトイレなどの公衆衛生だ。インドネシアではトイレにはトイレットペーパーなどはなく日本のトイレのようにボタンを押すと、水が自動で流れることは少ない。実際、インドネシアにおいてホテルのロビーなどでしか日本のと同じようなものは見ることは出来ない。またメダン市の日本大使館の方が「メダン市はインドネシアの中でも街がきれいな方ではない」とおっしゃっていた。街中の市役所やホームステイ先の家は近代的なビルが建っていたが、少し郊外に行くと家の裏にはゴミが散乱していた。家も建っているのがやっとなの見えるものもあり、日本以上に貧富の差があるように思えた。僕のホストファミリーである KINDI はメダン市の副市長の息子であったため家も広く清潔だった。貧しいと言っても一定の生活水準があるように見える日本とは違い、インドネシアでは収入の差がそのまま生活環境に直結していた。このようにメダン市では公衆衛生が発達しているようには感じられず、そのような点で日本は清潔な国なのだなあと再認識することが出来た。

(3) インドネシアで感じた人の温かさ

引込み思案な人が多いと言われる日本人と違い、インドネシア人はとてもフレンドリーな人が多く接しやすかった。そのことが一番わかったのは1日ホストファ

ミリーと過ごすフリーデーだった。その日はKINDIの親戚とともに果物狩りに出かけていた。彼らは初対面である僕に対しても「一緒に写真を撮ろう」と言ってくれたり、果物を勧めてくれたりした。しかしさらに驚いたのはドリアンを食べていた時にいきなり話しかけてきた男の人だ。その人は「僕の友達日本人の彼女がいるんだ」とニコニコ笑いながら陽気に話しかけてきた。その後僕もその人と打ち解けてどのくらいここ(インドネシア)にいるのかや、インドネシアのどこが好きか、日本のアニメなどを話した。その男性はKINDIの親戚とも仲よさそうに話していたので、僕は当然その人も親戚の一員なのだろうと思っていた。しかしKINDIのお兄さんに聞いてみたところ、彼らは初対面だというのだ。奥手な日本人ならそんなことをする人はいないだろう。しかし彼らは「インドネシア人は皆すぐに仲良くなるから大丈夫だ」といって連絡先を交換していた。

日本人の「温かさ」は心で通じ合い心中を察し合うものだが、インドネシアの人の「温かさ」は肌で感じられるものだった。実際メダンで過ごしてみて、人とのコミュニケーションは日本よりも取りやすく話が弾んだと思う。

(4)まとめ

今回のメダン市派遣で日本とインドネシアの文化、食、宗教などの違いを理解することが出来た。日本には部族と言う概念がないが、インドネシアには大きくは8つの部族があり、さらにそれぞれに伝統があり文化があり言葉がある。日本も古くはアイヌなどの部族があったが、未だに部族の伝統がしっかりと守られ受け継がれ国民に広く受け入れられているのは素敵なことだと思った。

またインドネシアのように楽しくコミュニケーションをとれるのも良いが、日本のように黙っていてもわかり合えるのも魅力的なことであると気づけた。日本のよいところを再確認しインドネシアの魅力を発見できて、とても実りのある旅行だった。

思い出に残ったメダン市派遣

二村 秀平

僕は以前から何回か海外旅行に行っていて、今回の派遣へ行く前も、正直そこまで不安や緊張はありませんでした。しかし、実際にインドネシアに行き、現地の人と一緒に生活してみて、とてもカルチャーショックを受けました。まず1番驚いたことは、家はとても大きくお手伝いさんも数人いるお宅なのにシャワーが無く、大きいバケツに水を貯めて使ったことです。これだけは、インドネシアで何年生活しても慣れることはないと思います。また、派遣前にインドネシア料理は辛い食べ物が多いと聞いていましたが、実際に食べてみると想像以上の辛さで、僕には少し合わずお腹が痛くなったりしました。やっと日が経つにつれ、少しずつ慣れてきました。また、インドネシアはフルーツの種類がとても豊富でしかもとても美味しかったです。特にマンゴーが美味しかったです。しかし、果物の王様と呼ばれているドリアンだけは匂いも味も今まで食べたことがない味で正直美味しく無かったです。しかし、ドリアンは三回食べると美味しくなると聞いたので、機会があったらまたチャレンジしてみたいと思います。

その他は自然もとても豊かで、派遣中に様々な場所はどれも美しくダイナミックでした。特に、サモシール島のピソ滝が印象に残っています。また、僕のホストファミリーはイスラム教徒で、実際に体験することはできませんでしたが、お祈りなどを初めてみる事ができました。インドネシアはイスラム教徒が多いことは知っていましたが、朝の決まった時間にコーランが流れたり、女の人は皆スカーフを巻いていたり、イスラム教が人々の生活の中に浸透していることを実際に見ることができました。また、インドネシア人の人柄の良さや性格もとても印象に残りました。インドネシアでは、みんなとても陽気で明るく、フレンドリーで気さくに話しかけてくれて、とても楽しく10日間を過ごすことができました。一方で大雑把でかなりいい加減なところもありました。僕が驚いたことは7時に集合なのに、ホストファミリーに7時40分に出るよと言われたことです。完全に遅れるなと思いましたが、ちょうど良い時間でした。インドネシアでは、これくらい時間に大雑把なほうが良いのだなと思いました。僕も性格は日本人の中では大雑把なほうで、初対面の人とでもすぐに友達になれるのでインドネシアの方が日本より向いているのかなと思いました。

最後に今回のメダン市派遣は、実際に現地のホストファミリーの家にたった一人で泊まって現地の人々の生活を体験したので、カルチャーショックや、具合が悪くなったり、言語の難しさを痛感したりと困ったこともありましたが、今回一緒に派遣に行った皆や、家族や現地の人々の明るさとフレンドリーさに本当に救われました。ありがとうございました！！ これからもホストファミリーと一緒にいった派遣生

の皆とはずっと仲良くしていきたいです。インドネシアにまた行ってイスラム文化を体験をしたり、ドリアンや辛い食べ物に挑戦したいです。そして今度はホストファミリーにも日本にも来てほしいです。その時は僕がホストファミリーに日本の歴史や文化を紹介したいなと思います。英語やインドネシア語も勉強し、今回の派遣の経験を将来に活かしていきます。

メダン市派遣の感想

吉野 奏

私は今回の派遣が初めての海外だったので、出発の前は死ぬんじゃないか、とても心配で不安でした。しかし事前のオリエンテーションで仲良くなった派遣生達と飛行機に乗りシンガポールで乗り換えた頃にはもう私の頭は楽しみでいっぱいになっていました。

メダンの空港に着いたらホストファミリーが家族総出で迎えに来てくれてとても嬉しかったです。その後、緊張しながら食べた初のインドネシアのご飯はピザハットでした。日本にもあるチェーン店ですが、味は少し違いインドネシアのピザは耳にチーズが入っていてこってりとした印象でした。緊張していつも以上に英語が喋れなくなり固まってしまった私に沢山話しかけてくれて嬉しかったです。ピザを食べ終わりホストファミリーの家に行きました。インドネシアの家は基本トイレとお風呂が一緒に、私の泊まった家はシャワーが出なくて、大きいバケツから水をすくいそれを浴びるという日本ではあまり見ないスタイルでした。貯まっている水は黄色く濁っていて鉄の匂いがしました。洗面所もなく、1日目はさすがに戸惑い日本のお風呂がとっても恋しくなりました。しかし2、3回目のお風呂となると慣れてしまって黄色い水でも余裕でした。毎回シャワーを浴びる度に自分強くなってるな、成長してるなと実感しました。トイレとお風呂が一緒なのでもちろんトイレに入る時もビシヤビシヤです。ビーチサンダルを履いて入っていました。脱衣所もなかったの、着替えるのも一苦労でした。全てすぐ慣れますが！

次の日は朝から市長訪問でした。そこでもインドネシアハプニング発生しました。家を6時半ぐらいに出て、早起きだったのもあり私はすぐ車で寝てしまったので何があったか分かりませんが、8時半集合なのに目を覚ますと9時、！！どこに連れて行かれたのかも分からないし、もう時間なのにコーヒーショップで休憩をして、なんか飲む？と聞かれました。私はとっても焦りながら、インドネシア人のマイペースさにとても驚きました。その後無事みんなより遅れて市長訪問に合流出来て安心しました。派遣が終わる頃にはインドネシアでは遅刻は割と当たり前、予定はあくまでも予定。という風潮を理解しました。

また、独立記念日に市民の前でドラえもん音頭を踊った際には、沢山の可愛い子供たちが集まって一緒に踊ってくれてとても嬉しかったです。言葉はあまり通じませんが心はとても通じあった気がします。インターネットで調べるだけでは分からない異文化を認めて受け入れてくれる人間の温かさを感じました。

色々あった10日間の派遣は私にとって貴重でとってもいい経験でした。ホストファミリーを初めとするインドネシアの人の温かさを沢山感じ、文化の違いも自らの肌で感じる事が出来ました。言葉の壁で悩まされた事もありましたが、何か喋れば相手も分かろうとしてくれるし、ジェスチャーやたどたどしい英語でも通じるのでとにかく伝えようとする気持ちが大事だと分かりました。別れ際にはアルバムまでくれた優しいホストファミリー……次は日本に行かせてね。ありがとう。と言って泣いてくれたパートナー……私を家族として受け入れてくれたことに心から感謝しています。行く前はインドネシアのことは全然知らなかったですが、今ではインドネシアの課題も良いところも知った上で大好きになりました。

そして改めて今まで普通と思っていた日本の生活がどれだけ恵まれてるかを体感しました。どこのトイレに入っても紙があるし流れるし綺麗だし、お風呂のシャワーはお湯が出るし水が透明だし、水道水は飲めるし、日本に帰ってきてとても感動しました。インドネシアに行かなかっただけで気づかなかったことに今は泣きそうな程に感謝しています。この感謝と感動をこれからもずっと忘れることはないと思います。

これからも沢山勉強して英語とインドネシア語を上達させ、次ホストファミリーに再会する時には今回より沢山色々なことを話したいです。このような貴重な機会を与えてくださり、協会の皆様、市川市役所やメダン市の方々、そして行かせてくれた家族にとっても感謝しています。ありがとうございました。

Terima kasih!!

メダン市派遣を終えて

和田 有理花

私は、国際交流派遣生としてインドネシアのメダン市を訪問する機会をいただきました。市川市の近隣の高校の生徒も含め8名が参加し、派遣前には10回程のオリエンテーションがありました。学校行事などで参加することも出来なかった日もあり、仲良くなれるのか不安でした。しかし、メダン市から帰国し、このメンバーと一緒に共有した時間や体験は私の人生の中でかけがえのない思い出となり、このメンバーで良かったと心から思いました。

私は小さい頃ミャンマー、ベトナムに滞在していたことがあります。しかし、インドネシアを訪問するのは初めてでした。発展途上国は初めてではなかったので、色々大丈夫であろうと変な自信もありました。インドネシアはこれらの国と似ているところが沢山ありました。以前は家族がそばにいてくれたので大変なこともあったけれど不自由することはありませんでした。しかし国が異なれば言葉も文化も違います。自分の考えが甘かったと痛感しました。

メダンに到着するとホストファミリーが出迎えてくれました。とても優しい方で安心しました。その日の夜にホストファミリーが大好きだという屋台に連れていってもらいました。そこのお店はアサリの専門店、アサリをピーナツソースにつけて食べるというものでした。せっかくおもてなしをさせていただいたのにお腹を壊してしまうのではないかと不安になってしまい、申し訳ない気持ちにもなりました。しかし、初めての味でしたがインドネシアの文化に触れたような気持ちになりました。マザーはいつも私を気遣ってくれましたが、ほとんど英語が通じず、もっとコミュニケーションを取れるように、インドネシア語を勉強しておけばよかったと後悔しました。

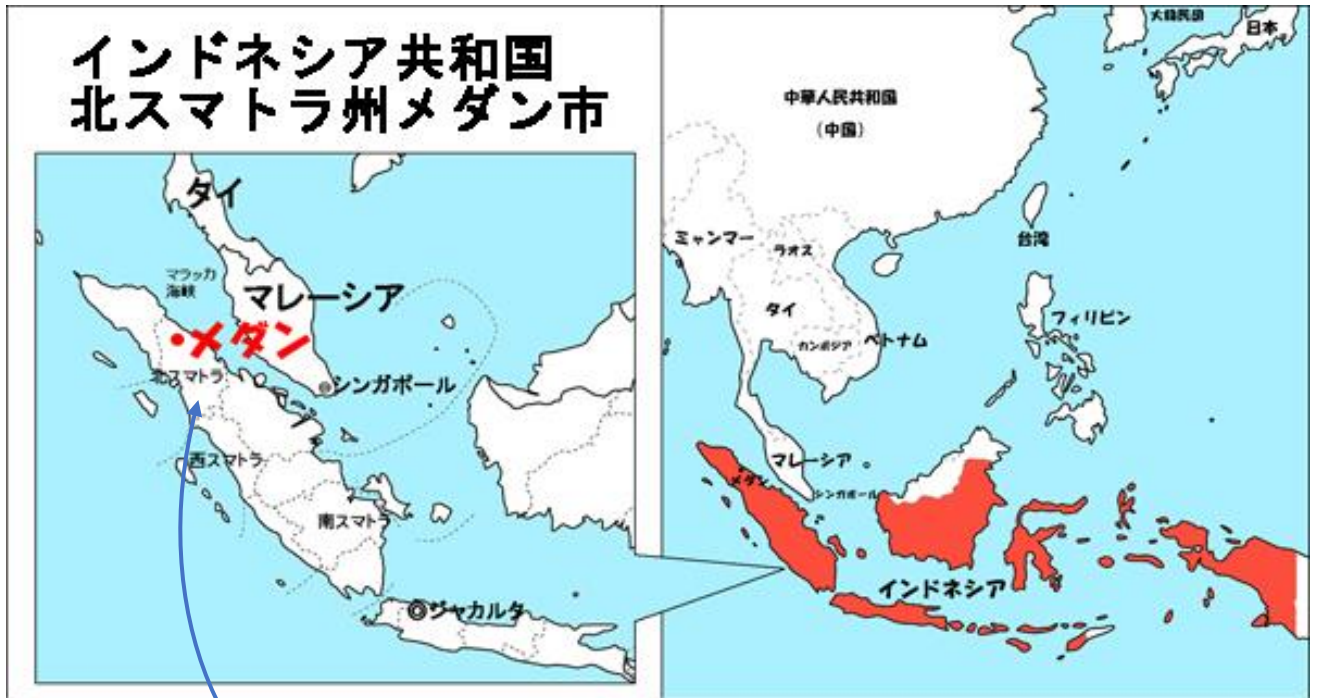
渡航前から話があったように一番心配していたことはお風呂でした。今までどこの国に行ってもシャワーがありお湯は出ているので今回は覚悟していましたが、わざわざ、ホストマザーがお湯を用意してくれたので水浴びにはなりませんでしたが、バケツから水を汲んでいる時、日本で普通にシャワーからお湯が出ている幸せを身にしみて感じました。

市内観光ではモスクと宮殿に行きました。モスクの中は天井から壁、窓、全てがとても美しく圧倒するとともにホッとするような空間でもありました。また違う日にムスリムの衣装を着てサビアトゥール高校を訪問しました。その学生さんにインドネシアの伝統的な踊りを見せていただきました。難しい踊りなのに若い人たちが古い伝統を守っているのだと感じました。私達も日本文化を伝えるために、折り紙や習字、剣玉など紹介しました。同世代の人にあまり興味をもってもらえないのではないかと心配でしたがたくさんの方が日本文化に興味を示してくれ楽しんでく

れました。言葉が伝わらずジェスチャーなども加えて説明しました。言葉の壁はありましたが伝えたい気持ちや相手を理解しようという気持ちあれば伝わるのだと実感しました。またインドネシアの独立記念日の式典に参加させていただきました。私たちは浴衣でドラえもん音頭を踊りました。ドラえもんはインドネシアでも人気でとても喜んでくれました。

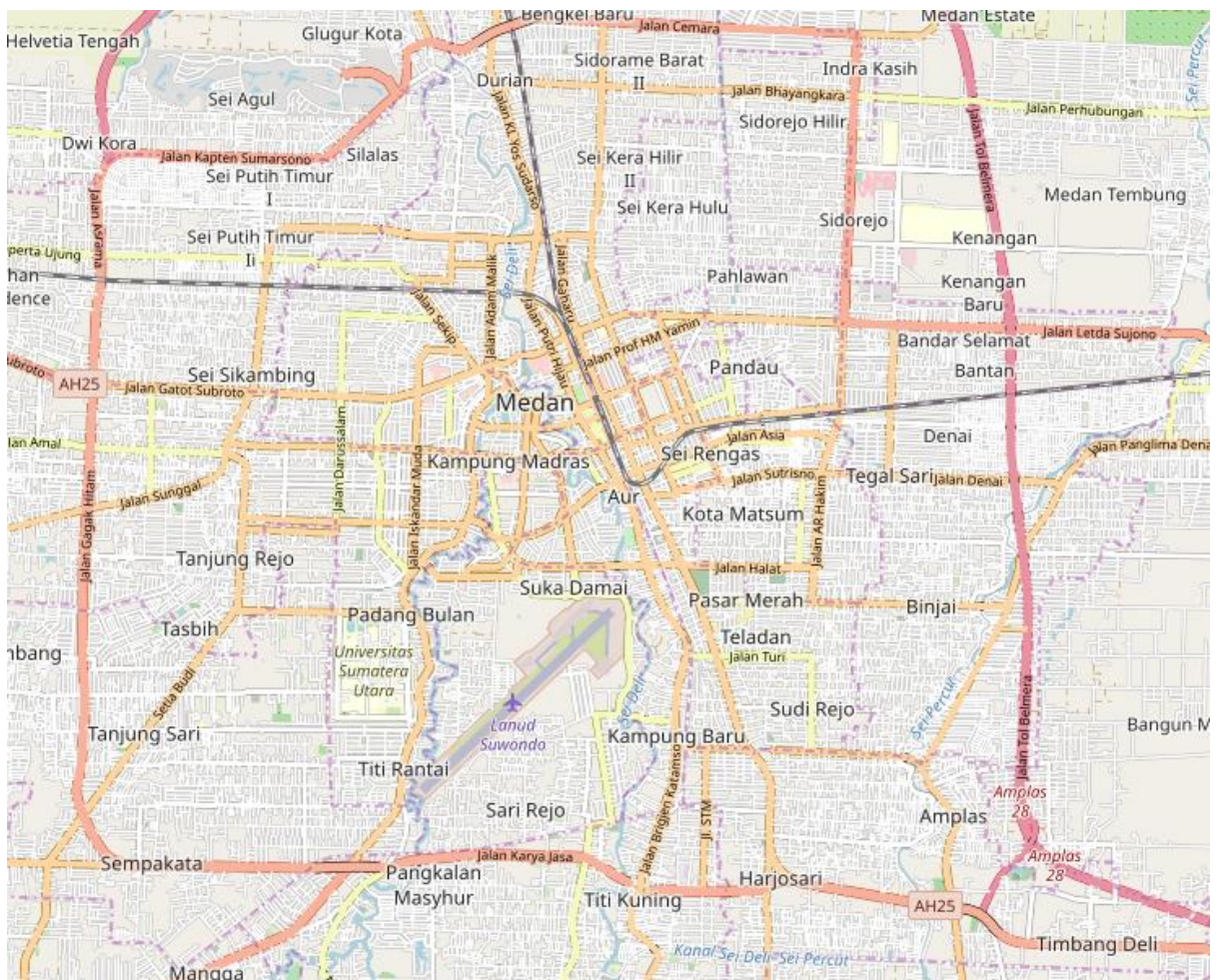
インドネシアの人々は明るくて朗らかな人が多いと感じました。しかしインドネシアでは時間の流れが穏やかなのか時間はあまり守られず、はじめは集合場所に遅刻したりハラハラしたこともありました。インドネシアでは普通のことだと聞き最後の方は受け入れるようになっていました。ホームステイ先のパートナーには送り迎えや一緒にご飯を食べたりしました。パートナーとは音楽の好みが偶然同じでとても盛り上がりました。またパートナーとパートナーの友達と一緒にショッピングモールに連れていってもらったりドリアンをいっしょに食べたりしました。ドリアンはあたりはずれがあり美味しいものを食べると病みつきになってしまうのですが、残念ながら私は匂いも味も好きになれませんでした。このメダン市への派遣は色々なパプニングがあり落ち着かなかったけれどそれは色々な意味でサバイバルできたと思います。それを一緒に乗り越え経験したメンバーは一生忘れることはないと思います。ハプニングを含めて丸ごとインドネシアでの10日間は楽しかったです。

今色々なことを思い返すと、楽しかったインドネシアに戻りたくなります。貴重な体験をさせていただいた市役所の方や、このメンバーに出会えたことに本当に感謝しています。ありがとうございました。



北スマトラ州にある世界最大のカルデラ湖
「トバ湖」と湖中にある「サモシール島」

メダン市内



© OpenStreetMap contributors